

①規格外や低未利用品の有効活用

健康野菜「藤三七」の未利用葉を有効活用した新商品の開発及び販路の開拓

銅、亜鉛、MG等を豊富に含む健康野菜の未利用葉を粉末加工し、健康食品原料として商品化、販路開拓を行う。

連携体

農林漁業者

青木農園（農業）

有機肥料を用いた肉厚な藤三七の生産栽培技術を持っている。生産規模拡大に併せ未利用葉の商品化に取り組む。

中小企業者

(株)環境企画設計機構（飲食料品卸売業）

未利用葉を粉末化した新製品を開発、有用成分を含む健康食品原料として、健康食品市場へ販路開拓する。

連携参加者

東京シティ青果(株)(飲食料品卸売業)、(株)藤井養蜂場(食品品製造業)

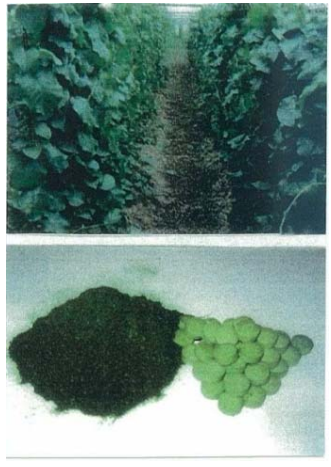
(株)環境企画設計機構と連携して有用成分に着目した藤三七のブランド化に取り組む。生鮮葉、粉末新製品の販売を担当する。

サポート機関等

地域活性化支援事務局

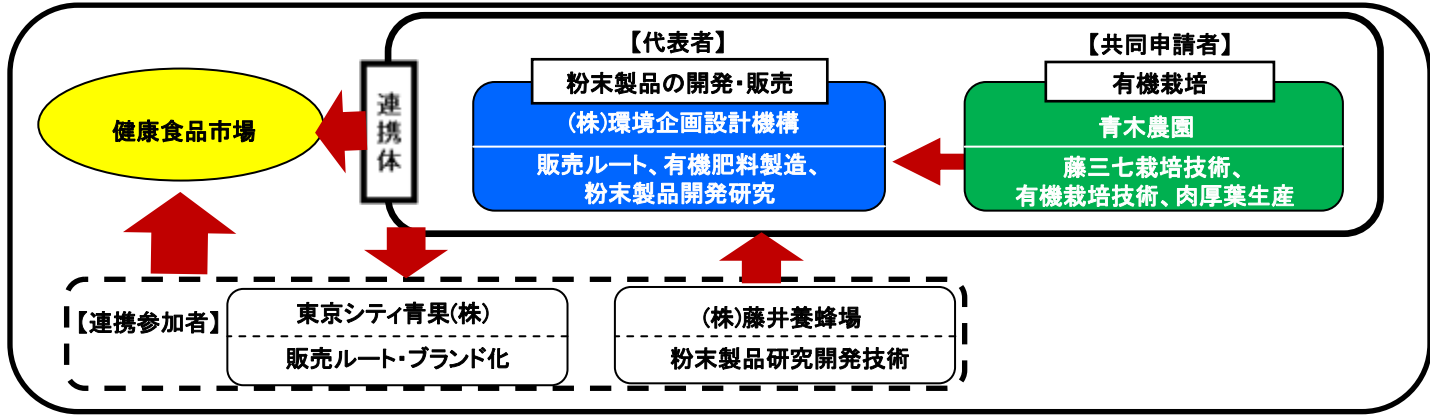
連携の経緯

両者は、有用成分を多く含む健康野菜として、築地市場の青果卸売業者と連携して藤三七のブランド化に取り組んできた。生鮮野菜として出荷できるのは、肉厚で定形なものに限られていたため、生鮮規格に合わない未利用葉の有効活用を図るための研究を連携参加者とともに行った結果、未利用葉を粉末化(フリーズドライ法)し、健康食品の原料として商品化するに至った。



連携に当たった課題や工夫等

市場からの出荷量の増加要請に対し生産を拡大した場合、生鮮規格に合わない未利用葉(80%)の活用が課題。未利用葉の加工について研究を重ねた結果、生葉の適正管理とフリーズドライ法が効果的であることが判明した。販路については、生鮮葉を取り扱ってきた東京シティ青果(株)が加工品についても健康食品原料として販路開拓を行う。



連携による効果

農林漁業者

5年で6,075万円の売上高増、作付面積を20aから1.5haへ拡張

未利用葉の商品化により、高い収益性が期待される。

中小企業者

5年で2億円の売上高増、雇用の拡大

有用成分を含んだ粉末新製品を開発、健康食品原料として市場開拓が期待される。

代表企業等の連絡先

企業等名：株式会社環境企画設計機構
 TEL：096-285-3172
 E-mail：sekkei.kikou@aqua.nifty.jp

所在地：熊本県熊本市長嶺南5-1-21
 FAX：096-365-7119